

● 豊産業株式会社 設立/1970年12月 資本金/3,000万円 <https://www.toyotomi-group.jp/toyotomi/>

本社	〒936-0857 富山県滑川市下梅沢1341	TEL 076-475-4645 FAX 076-475-4647
資源リサイクルセンター	〒939-0544 富山県富山市水橋下砂子坂761-1	TEL 076-479-1500
車両整備工場	〒936-0857 富山県滑川市下梅沢1341	TEL 076-475-4645 FAX 076-475-4647
タイヤセンターヨトミ富山店	〒930-0822 富山県富山市新屋5-3	TEL 076-451-5500 FAX 076-451-0990
タイヤセンターヨトミ滑川店	〒936-0857 富山県滑川市下梅沢1341	TEL 076-471-0201 FAX 076-471-0203
東京支店	〒110-0005 東京都台東区上野7-4-8 フジカワビル	TEL 03-5830-6575 FAX 03-5830-6576



● 三豊工業株式会社 設立/2005年12月 資本金/2,000万円 <https://www.toyotomi-group.jp/mitsutoyo-industry/>

本社	〒930-0827 富山県富山市上飯野13番6	TEL 076-451-6100 FAX 076-451-6107
追分工場	〒936-0808 富山県滑川市追分3509番1	TEL 076-475-2255 FAX 076-475-2166
上市工場	〒930-0301 富山県中新川郡上市町竹鼻731-5	TEL 076-472-0100 FAX 076-473-0104
富山支店	〒930-0822 富山県富山市新屋5-3	TEL 076-411-7177 FAX 076-411-7178
新川支店	〒939-0653 富山県新川郡入善町上飯野1196番	TEL 0765-32-5316 FAX 0765-32-5317
金沢支店	〒924-0011 石川県白山市横江町1843-15	TEL 076-275-4141 FAX 076-275-4142
関東支店	〒370-0036 群馬県高崎市南大畑町1253-1	TEL 027-386-3700 FAX 027-386-3773



● 日本オートリサイクル株式会社 設立/2002年6月 資本金/3,000万円 <https://www.toyotomi-group.jp/nar-toyama/>

本社	〒931-8406 富山県富山市松浦町7番30	TEL 076-438-0100 FAX 076-438-1115
長野支店	〒387-0006 長野県千曲市栗佐1121-1	TEL 02-6214-7937 FAX 02-6214-7938



● 日本総合リサイクル株式会社 設立/2009年6月 資本金/4,500万円 <https://www.toyotomi-group.jp/nsr-toyama/>

本社	〒933-0113 富山県高岡市伏木1丁目1番地1	TEL 0766-45-0100 FAX 0766-44-8090
射水支店	〒939-0284 富山県射水市新開発457	TEL 0766-52-3347 FAX 0766-52-5141
東京支店	〒110-0005 東京都台東区上野7-4-8 フジカワビル	TEL 03-5830-6575 FAX 03-5830-6576
岡山支店	〒709-0611 岡山県岡山市東区横原399-2	TEL 086-230-1119 FAX 086-230-1145



豊産業グループ
ネットワーク
Group Network



TOYOTOMI SANGYO

GROUP INFORMATION

世界オンリー1の総合リサイクル企業を目指して



TSG 総合リサイクル企業
豊産業グループ

豊産業株式会社 三豊工業株式会社 日本オートリサイクル株式会社 日本総合リサイクル株式会社

限りある資源を 未来へ――

人や環境に配慮し、最新・最高の技術で
資源循環の限界へ日々挑戦し続けます。



完結型事業グループ



豊富産業グループでは、機械や金属、車、鉄道車両など幅広い商品において、処理や買取から解体、再資源化まで全てのリサイクル工程を、自社グループ内で完結するシステムを展開しています。

TOP MESSAGE

リサイクル技術の グローバルスタンダードを目指して

豊富産業の名前の由来は、「豊かに富む」、「豊かな富山」という意味があり、将来の夢を込めています。

昭和43年、リサイクル事業を手掛ける豊富商店として創業以来、世界初となるマルチ解体機など産業機械の開発や、鉄スクラップ、自動車、電車などの解体におけるプラント設備の設計開発～製品の再資源化に取り組んでまいりました。

これまでリサイクル産業の分野で国内外、約70件の特許を取得しましたが、そのほとんどの特許を公開し、業界の技術向上、発展に寄与してまいりました。

また、三豊工業（株）追分工場における日本初の4重防音対策工場のように、全ての工場を無公害で美観を維持した建物にするなど、環境産業としてもこれまでの方針を維持し、展開してまいりました。

今後のビジネスは、これまで培ってきた技術力や即応力で世界に貢献しなくてはならないと考えています。

中でも航空機は世界的に解体システムが未確立で、弊社の国際特許を取得した技術を用いれば合理的で低コスト、かつ高品位の資源リサイクルが可能となります。また、アルミニウム製鉄道車両は、水平リサイクルによる資源循環であり、新たな車両製造への研究にも取り組んでおります。

常に新しい事業に挑戦し、次なる一手を先んじて打つことは事業の発展は元より持続可能な社会を構築する上で、欠かせない大切な要素です。

我が社の特許技術が、皆様の生活と業界の発展及びリサイクル率の向上に少しでも寄与できれば幸いに思います。

豊富産業グループ 代表取締役会長

高倉 可明



3つの特徴

1 開発力

70の特許を国内・外で有し、ガソリン濾過システム、マルチ解体機、大型スクラッププレス切断機、タイヤホイール分離装置など、常に時代の要請に応え、不可能を可能にする技術の開発に取り組んできました。

資源リサイクルのリーダーとして、有効資源をいかに有効かつ効率的に回収するかを考え、実現していくために、新たな開発への努力を続けていきます。

また、国内で初めて大型重機の動力をディーゼルから電気式に変更し、クリーンなエネルギーの推進に努めています。



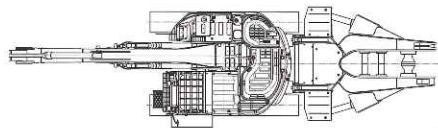
開発者が開発したマルチ解体機



ガソリン濾過装置 (特許取得)



大型剪断機



マルチ解体機設計図



2 輸送力

豊富産業グループでは、約70台の自社所有車両によって、常に安定供給が可能な抜群の輸送力を誇っています。

また、交通法規の遵守はもとより、社内のガバナンスをドライバー1人1人がしっかりと意識することで、コンプライアンスにおいてもお客様に信頼されるパートナーとして、高い評価を得ています。



自社所有車両

3 環境保全力

環境保全と資源循環社会の実現に向けた取り組みを行っています。「マルチ解体機」は電気式の主力動機を採用している他、「ガソリン濾過装置」の全国への普及は廃油の焼却抑制につながっています。

このような持続可能な開発が評価され、2007年には日中韓3カ国の環境大臣が、2008年には国連環境計画 (UNEP) のアンジェラ・クロッパー事務局長が訪れる等、世界的にも特に環境に配慮している企業として認められています。



工場周辺の緑地化

一見リサイクル工場とは分らない、緑あふれる美しい景観と環境を実現。そこかしこに植栽を施した緑地帯には、遊歩道や公園を造成し、地域の方々にも憩いの場として開放しています。訪れる人々に癒しとやすらぎを与えてくれると同時に、工場内で働く社員にとっての職場環境の改善にも役立っています。



三豊工業(株)上津工場 周辺緑化



日本総合リサイクル(株) 緑地帯



工場内の防音構造

三豊工業(株)追分工場では、日本初となる4重の防音対策を施し、周辺地域への防音・防臭に取り組んでいます。

工場内部に大型2000馬力のシュレッダーを収納した鉄筋コンクリートの建屋を建て、その内部に吸音材、更に工場内外を防音壁で囲んだ4重構造によって、工場外へ音や臭気ももれることはありません。

また、車両のアスベスト除去・処分は厳重な密閉養生を行い、屋内で全ての解体を行うため、騒音・粉塵・振動・油の流出がなく、環境負荷に配慮した仕組みを導入しています。

日本初の4重の防音対策

1 工場内に、鉄筋コンクリートの建屋を建設



2 建屋内部に吸音材を設置



3 工場の外壁



4 工場の外に防音壁を設置



SDGsへの取り組み 三豊工業(株)追分工場 太陽光発電を導入

三豊工業(株)追分工場では、工場棟屋上に約2,000枚のパネルを設置し、2025年2月から太陽光発電を導入しています。

発電量は累計約53万kwhで、CO₂の削減量は稼働以降通算約8ヶ月で234tとなり、発電した電力は全て工場内で使用しています。

豊富産業グループ各社においては、各種エネルギーの省力化によるコストダウンを目指す一方、SDGsへの取り組みを積極的に進めています。

今後、日本総合リサイクル(株)でも大型の太陽光発電を導入予定です。





豊富産業株式会社

TOYOTOMI SANGYO

<https://www.toyotomi-group.jp/toyotomi/>



- 本社
- 資源リサイクルセンター
- 車両整備工場
- タイヤセナートヨトミ富山店
- タイヤセナートヨトミ滑川店
- 東京支店



リサイクル業界の未来を拓き続ける

資源リサイクルセンター

鉄部門

国内外を視野に入れた戦略

世界的に鉄の需要が伸び続ける中、シュレッダー、HS、H1、H2エンジンの鉄スクラップなどを取り扱い、アジア向けの輸出も行っています。



アルミ部門

自動車エンジンなどに再生

スクラップエンジンやアルミサッシなどのアルミ材を溶解・再生するため、自社で成分分析を行い、ユーザーの要求に合わせた高品質のアルミインゴットを製造しています。リサイクルされたアルミは、再び自動車エンジンなどに使用されます。貴重な資源を守りながら、循環型社会に貢献しています。



再生アルミインゴット

アルミニウム再生のための 新型燃焼炉システムを開発・導入(特許)

日本オートリサイクル(株)で分解された自動車のエンジンを独自に開発したプラントシステムにより溶解し、高純度の再生アルミインゴットとして、新たなエンジン部品用に出荷しています。



資源リサイクルセンター



車両整備部門

タイヤや車のリサイクル率向上へ

自社保有の大型車両や重機、また、主に営業車両の点検・車検等を滑川整備工場にて専門のメカニックが責任を持って行っています。

安全な運行はもちろんのこと、自動車をはじめ、様々な産業分野でのさらなるリサイクル率向上のために、豊富産業はこれからも貢献したいと考えています。



車両整備工場



許可可

使用済小型電子機器等認定業者/
自動車分解整備事業認定業者/古物商



タイヤセナートヨトミ滑川店



タイヤセナートヨトミ滑川店

タイヤセナートヨトミ

中古タイヤ・アウトレットタイヤを多く取り揃え

タイヤセンター豊富ではプロの目で判断した、良質な中古タイヤやホイールを販売しています。

廃車から取り出した使用可能な中古タイヤやホイールは、富山支店にて販売しています。また、この他に滑川、富山にもタイヤセンターを設け、廉価な中古タイヤをはじめ新車のタイヤ販売も行っています。



ホームページもご覧ください



<https://tirescenter-toyotomi.com>

詳しくはコチラから





● 本社 ● 追分工場 ● 上市工場 ● 富山支店 ● 新川支店 ● 金沢支店 ● 関東支店

許可可

産業廃棄物処分業【上市工場/中間処理/破砕・選別、切屑】【追分工場/中間処理/破砕・選別】【金沢支店/中間処理/選別、切屑】/産業廃棄物収集運搬業/破砕業(自動車リサイクル法)/特定建設業【土木工事業/とび・土工工事業/解体工事業】/一般建設業【造園工事業】/一般廃棄物処分業/一般廃棄物収集運搬業/古物商/引取業(自動車リサイクル法)/第一種フロン類充満回収業/岐阜県使用済金属類営業許可/ISO 14001:2015/JIS Q 14001:2015/廃棄物再生事業者登録(白山市)/一般貨物自動車運送事業



大型設備・機械で大量に、効率的に再資源化



甦る資源 ～限られた資源を有効に～

当社創業者が発案し、製品化されたマルチ解体機は、小さな部品まで回収することができ、全国の多くの企業で採用されています。

資源リサイクルのための解体で、つねに時代の一步先をゆく三豊工業(株)は、圧倒的な馬力を誇る鉄骨カッター、最新鋭の圧砕機など、業界屈指の充実した大型設備を保有し、構造物解体のプロフェッショナルと建設工事の経験豊富な専門スタッフが、基本理念である自然との調和、地域社会との共生に基づき、周辺環境に配慮し、安心・安全なビル・橋梁・コンクリート・鉄骨解体など、あらゆる構造物解体を可能にします。

構造物解体のエキスパート

ゼネコン出身の自社の専門スタッフが、施工計画の立案を行い、自社の最新鋭の機械を駆使して、周囲の環境と安全を第一に工事を行います。全国各地で多くの実績を上げ、その技術と安全への取り組みは高い評価を得ています。もちろん、出た廃材は廃棄処分することなく、様々な自社のプラントでリサイクルします。



MITSUTOYO ZERO EMISSION

限られた地球資源のゼロ・エミッション化を目指して、最新設備と効率的なリサイクル工程によって大規模な一貫処理を可能にしています。

鉄のリサイクル



木材のリサイクル



非鉄金属のリサイクル



追分工場

追分工場では鉄、非鉄金属の選別、加工処理を主な事業として行っています。このリサイクルプラントも弊社独自の設計設備で、安全と省力化を極限まで考慮し、オペレーターは集中管理室で作業を行っています。大型シュレッダー導入により、1日に約1,000tの処理が可能となっています。



工場内プラント



集中管理室



追分工場

上市工場

ステージ型スクラップ処理工場の開発

幅43m、奥行き35m、高さ2.3mの巨大なステージ上にギロチンを設け、トラックで運ばれてきた鉄スクラップを1,250tの大型ギロチンで切断・加工して搬出。この方式のメリットは大きく、作業時間の大幅な短縮、トレーラーの安全等、多くの手間や危険が解消されました。



上市工場

金沢支店

限られた資源を有効にリサイクル

金沢支店は主に石川県内における鉄スクラップの集荷～加工処理～販売を行っています。2019年には工場に最新鋭の設備を導入するとともに、新しい事務所も完成し、約20名の社員が安全と環境保全を心掛けて働いています。





日本オートリサイクル株式会社

NIIPPON AUTO RECYCLE <https://www.toyotomi-group.jp/nar-toyama/>



詳しくはコチラから

● 本社 ● 長野支店

【事業】解体業(自動車リサイクル法)／取替業(自動車リサイクル法)／引取業(自動車リサイクル法)／フロン回収業(自動車リサイクル法)／産業廃棄物処分業／産業廃棄物収集運搬業／一般廃棄物処理業(処分業・廃タイヤ)／一般廃棄物収集運搬業／第一種フロン類充填回収業／岐阜県使用済金属類営業許可／自動車のリサイクル運行許可(販売業)／古物商／ISO 14001:2004/JIS Q 14001:2004

自動車の99%を再資源化する技術力と発想力



自動車・バス、板金塗装工場



工場前

人力を極限まで省力化した、世界初の重機リレー解体方式

素材や部品を極限まで回収し、エコプレス(※)という名の高品質の鉄資源として製鋼メーカーに納入しています。横に3台のマシナリ解体機(弊社特許取得後、コベルコ等へ使用を開放)を並べて解体し、ボディ部分だけになった車体をプレス機に入れます。この結果、非鉄金属を含む部品類は機力取り除かれ、鉄と樹脂類のみのエコプレスが出来上がり、それぞれのメーカーに納入されます。

また、エンジンも解体・分解され、中のアルミニウムを取り出して豊産産業(株)資源リサイクルセンターで溶解し、インゴットとして車のエンジン部品に再利用されています。



3台目 エンジン足回り回収
2台目 細かな部品類回収
1台目 シート・ダッシュボード・ガラス等回収

重機リレー方式による車両の解体

不可能を可能にする技術

日本オートリサイクル(株)では、自動車リサイクル法に対応し、使用済自動車の大規模一貫処理を行っています。液抜き、部品回収、内装外しの工程では、リユース部品を回収するほか、場外排出の廃棄物を最少限にするための事前分別を徹底しています。



カノン高圧洗浄機(特許取得)



エコプレス

※エコプレスとは
細かな非鉄金属が含まれる部品類を機力取り除いてプレスした、高品質の製鋼原料のことです。モーターやハーネス(電気配線)などは除去が難しく、技術的に大きな問題となっていました。車両の解体工程に世界で初めてマシナリ解体機を導入したことにより、それまで4〜5ヶ月だったハーネスの回収量が30t/月まで解錠時に拡大しました。高品質な廃棄物とプラントの開発。また、それを自分の手元のように設備無尽に操作する燃焼したオペレーター達の努力の結晶だと云えます。



日本総合リサイクル株式会社

NIHON SOUGOU RECYCLE <https://www.toyotomi-group.jp/nsr-toyama/>



詳しくはコチラから

● 本社 ● 射水支店 ● 東京支店 ● 岡山支店

【事業】産業廃棄物処分業／産業廃棄物収集運搬業／岐阜県使用済金属類営業許可／破砕業(自動車リサイクル法)／解体業(自動車リサイクル法)／引取業(自動車リサイクル法)／フロン回収業(自動車リサイクル法)／第一種フロン類充填回収業／古物商／一般建設業(土・工事業)／ISO 14001:2015

鉄道・バスなど大型車両解体で次の時代を拓く



大型廃車庫



工場プラント

国内初の完全屋内型工場プラントでバスや鉄道車両などの大型車両を再資源化

富山県高岡市の旧日本製紙跡地、約150,000㎡に完全屋内型工場が完成。バスや鉄道車両などの大型車両を飲み込むようにプレスし剪断していく巨大な「スクラップ剪断機」は、2013年に国内をはじめ世界各国で国際特許を得ました。

また、ここでも弊社が開発したマルチ解体機がフルに活躍。現在は主に大型バスを解体し、ほぼ全ての部品、部品をリサイクルしています。車両のスペース対策についても、これまで培った独自のノウハウを活かし、安全に処理を行っています。



アスベスト対策廃棄物工場

鉄、アルミ、レアメタルなど、「資源を製造」する最高品質のものづくりへ

鉄・非鉄はもちろん、海外に流出していた「都市鉱山」といわれるレアメタルを国内にとどめて解体し、再資源化しています。「資源を製造」するという発想の、最高品質のものづくりへ。

国内の製造業へ資源を安定供給し、日本の産業の土台を支えていくのが使命と考えています。

射水支店

2025年4月、旧坂吉(株)と日本総合リサイクル(株)が合併し、日本総合リサイクル(株)射水支店として新たにスタートしました。

これにあわせて古くなった事務所も改築しました。2階建ての建物は光を取り入れやすいよう窓を大きくしており、解放的なオフィスとなっています。シャワー室や休憩室、食堂も完備され、社員同士がコミュニケーションを取りやすいように工夫されています。

また、この合併により、豊産産業グループの持つ最新のシステムと技術が導入され、大きなシナジー効果を生み出しています。

(旧坂吉(株))は後継者不足の理由から、2020年12月に豊産産業グループが吸収合併したものです。

(日本総合リサイクル(株)射水支店)
・新事務所棟 鉄骨造り2階建て、延べ床面積244.81㎡
(既設の工場棟は1,442.51㎡)
・主要設備はバックホー5台、リフト3台、800t圧ロッド1基 他



航空機解体事業

航空機リサイクルへの取り組み

豊富産業グループでは、限りある資源を次世代につなげるため、自動車や鉄道車両に加えて航空機のリサイクルにも力を注いでいます。近年では航空機に使用される素材が多様化し、アルミニウムやチタン、炭素繊維など、再資源化に適した高性能素材の回収が求められています。当社はこうしたニーズに対応すべく、技術と体制の整備を進めてきました。



早くから、航空機リサイクルの国際的な団体であるAFRA (Aircraft Fleet Recycling Association) に加盟し、国際基準に沿った手法で安全かつ環境に配慮した解体・分別を実施。2022年には日本航空 (JAL) が運用していたボーイング777型機のリサイクルも担当し、国内外から注目を集めました。

さらに、2024年1月に羽田空港で発生した事故機の対応においては、当社が撤去作業を担当し、迅速かつ的確な対応を評価され、国土交通省東京航空局東京空港事務所より感謝状をいただきました。現場対応力や安全管理の姿勢が高く評価されたことは、当社にとって大きな励みとなっています。

これからもリサイクル技術力の向上に努めるとともに、国内外の関係機関と連携を深め、より高度なリサイクル体制を構築してまいります。そして、環境への配慮を第一に考えたリサイクルを、今後も一貫して心がけてまいります。

中古バス販売事業

中古バス係長

豊富産業グループでは、日本総合リサイクル(株)の敷地内に常時100台以上の中古バスを展示しています。

約5万坪の広い敷地内には1周約800mの周回コースがあり、納得ゆくまでご試乗が可能です。また、屋内での車体確認施設もあり、地下ピットからは下回りの状況、2階からは天井の状況も目視でご確認いただけます。

一方、自社グループに大型車両対応の整備工場もあり、お引渡し前の



予備検査やエンジン修理など、お客様の様々なニーズにお応え出来るように体制が整っています。

関東・岡山にも駐在員があり、専任スタッフが各エリアを担当しています。もちろん、オンライン (ZOOM) による商談も可能です。

また、売却を予定されている車両も現車を無料で確認・査定に伺いますので、ご安心ください。廃棄処分される車両もお引き受けさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。

ホームページもご覧ください



<https://chukobus-kakaricho.com>

詳しくはコチラから



特許

国内外で約70件の特許を取得

実用化され世界で活躍する主な豊富産業グループ開発、特許取得の重機及び機械設備、プラント (一部抜粋)

- 電動式マルチ解体機
- タイヤホイール分離装置
- スクラップ自動車の残処理方法及び装置
- スクラップ自動車の残燃料処理方法及び装置 (油水分離装置)
- インゴット型抜き方法及び取出し治具
- 管理型廃棄物処分設備及び処分法
- 廃車解体システム (重機リレー解体方式)
- ステージ型スクラップ処理ヤード
- 大型プレス切断機「スクラップ切断機」
- 航空機圧搾装置及び航空機解体方法

他多数



受賞歴

- 1994年 4月 タイヤホイール分離装置の発明により、第25回高木発明賞受賞
- 2009年 1月 代表取締役会長 高倉可明が日刊工業新聞社「第26回優秀経営者顕彰」優秀創業者賞受賞
- 2016年11月 代表取締役会長 高倉可明が中部地方発明表彰で中小企業長官賞受賞
- 2016年11月 豊富産業(株)・日本総合リサイクル(株)代表取締役社長 高倉康氏が中部地方発明表彰で中小企業長官賞実施功労賞受賞
- 2021年11月 第9回環境省グッドライフアワード実行委員会特別賞 環境社会イノベーション賞を受賞



環境省グッドライフアワード
環境社会イノベーション賞受賞



地域貢献

ボランティア活動のほか、野球グラウンド場を地域の方々に開放

東日本大震災や能登沖地震の際には義援金の他、ボランティア活動として津波で押し流された家財及び廃車の引き取りを行う等、被災地復興に尽力しました。

また、地域貢献活動も積極的にを行っています。植栽を施した工場周辺に遊歩道や公園を造成し、地域の方々への憩いの場として開放しています。2014年にはグループ会社敷地内の野球場も一般へ開放しており、現在も町内会や少年野球大会で使用されています。



野球グラウンド場

福利厚生

社員一人一人を大切にしている豊富産業グループ。
充実の福利厚生、人材育成に力を入れています。

全国優勝をめざす強豪野球部



野球部専用移動バス

充実した福利厚生施設

● 独身寮「とよとみ」



外観



室内

● 日本総合リサイクル(株) 社宅



概要

年 商	約250億円(2024年)
従業員数	グループ全体 約300人
取引銀行	・日本政策金融公庫 富山支店 ・北陸銀行 本店 ・商工中金 富山支店 ・北國銀行 富山東部支店

主な取引先	・大谷製鉄株式会社 ・日鉄物産株式会社 ・日本航空株式会社 ・丸紅テツガン株式会社 ・エムエム建材株式会社	・三星金属株式会社 ・東京メトロ ・全日空商事株式会社 ・阪和興業株式会社 ・岡谷鋼機株式会社 他
-------	---	---

沿革

History

1968年 6月	金属スクラップの再資源化を目的として、豊富商店を創業	1969年頃 海川市に移転 法人化
1970年12月	豊富産業株式会社設立	
1983年 6月	石川県鉄工団地に松任工場新設	
1985年 2月	一般廃棄物、古紙回収を主な業務とする、豊富商事株式会社設立	
1988年12月	電動式マルチ解体機特許取得	
1991年 1月	資源リサイクルセンター完成	
1994年 6月	タイヤホイール分離装置が「第25回高木発明賞」受賞	
1997年	神鋼コベルコ建機株式会社と共同で「全油圧式マルチ解体機」を開発	マルチ解体機の初期モデル
2000年 5月	廃油を比重分離して精製する「油水分離装置」が特許取得 その後業界発展のために無料開放	
2002年 6月	豊富商事株式会社が日本オートリサイクル株式会社に社名変更	
2003年 8月	自動車の再資源化を目的とした、日本オートリサイクル株式会社操業開始 国内初の完全屋内作業による自動車解体を実施	
2005年12月	豊富産業(株)より鉄スクラップを取り扱う部門を分離し、大型スクラップの処理を目的とした、三豊工業株式会社を設立	全油圧式マルチ解体機(平成7年ごろ)
2006年 2月	松任工場を、三豊工業株式会社金沢支店として新設	
2007年 7月	富山県滑川市追分に、国内初の4重の防音対策が施された全室内型 シムレッダー工場である、三豊工業株式会社追分工場を新設	
2009年 6月	鉄道車両やバス等の大型車両の再資源化を目的として、日本総合リサイクル株式会社設立 国内初の完全屋内作業による鉄道車両解体を実施	
2011年11月	代表取締役会長 高倉可明が中部地方発明表彰で「富山県発明協会会長賞」受賞	
2013年	大型プレス切断機「スクラップ切断機」が特許取得	
2014年 4月	「航空機圧潰装置及び航空機解体方法」が特許取得、その後アメリカ、中国、ヨーロッパでも国際特許取得	
2014年 6月	航空機解体に向けた米国視察で、日本企業では初めて 米国の企業を中心に構成する航空機解体リサイクル協会(AFRA)に加盟	
2016年11月	代表取締役会長 高倉可明が中部地方発明表彰で「中小企業長官賞」受賞	
2019年 3月	代表取締役会長 高倉可明が「富山新聞文化賞」受賞	
2019年 6月	三豊工業(株)金沢支店、事務所棟及び主要設備、緑地帯の全面改築	
2020年12月	坂吉株式会社、豊富産業グループへ加入(経営統合)	
2021年11月	「第9回環境省グッドライフアワード実行委員会特別賞 環境社会イノベーション賞」受賞	
2022年 3月	タイヤセメントヨトミ滑川店オープン	
2022年 4月	三豊工業(株)上市工場の新事務所棟完成	
2022年 5月	航空機業界へ進出(国内初の大型旅客機解体)	
2022年 5月	野球部 東日本軟式野球大会(II部、総走)優勝	
2024年 3月	日本オートリサイクル(株)が経済産業大臣より「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定	
2024年 3月	羽田空港での早期機体処理について、三豊工業(株)が感謝状を拝受 国土交通省東京航空局東京国際空港長(3月)、日本航空株式会社(7月)	
2025年 2月	三豊工業(株)追分工場で800kwの太陽光発電を導入	
2025年 4月	豊富産業グループの坂吉(株)が日本総合リサイクル(株)と合併、射水支店として新たにスタート	
2025年12月	三豊工業株式会社富山支店設立	



1969年頃 海川市に移転 法人化



マルチ解体機の初期モデル



全油圧式マルチ解体機(平成7年ごろ)



富山県環境計画事務局次長、事務局長に授け
(日本オートリサイクル(株) 2008年5月)